

ママが集まる “はぐ♥くみ”の場

「子育て世代包括支援センター」を開設



村

では本年度、「子育てに優しいまち」の実現に向けた子育て支援を進めるため、妊娠期から子育て期に至るまでのさまざまな悩みに対し、総合的な相談・支援を行うワンストップ拠点「子育て世代包括支援センター（愛称：はぐ♥くみ）」を保健センター内に開設しました。ここではセンターの支援内容などを紹介します。

【問い合わせ】保健センター（☎282局2797）

安心して子育てできる まちを目指して

センターの開設で村が目指すのは、「どうかい版ネウボラ」。ネウボラとは、フィリピン語で、「相談・アドバイスの場」を意味し、妊娠期から子育て期の全段階で切れ目なく総合的に支援すること、安心して子どもを産み育てられる環境をつくり出す。

センターには、「母子保健コーディネーターをはじめ、母子の健康を専門とする保健師・看護師が常駐します。個別面談などを通じて、一人ひとりにあったきめ細やかなサービスを提供します。妊産婦さんが、不安に思ってしまったときなどに、気軽に相談できるよりどころを目指します。

4月18日に開所式 センターが本格スタート

「子育て世代包括支援センター」の開所セレモニーは、4月18日、保健センターで行われ、地域の中でお母さんを支えるために活躍している母子保健推進員の皆さんや子育てアドバイザーなどを含め、約40人が出席しました。

村長からは「子育て世代包括支援センターを拠点に、妊娠・出産・子育ての切れ目ない支援によって、村民が安心して子育てできる地域づくりを進めていきたい」とあいさつがありました。

また、「子育て世代包括支援センター」の愛称「はぐ♥くみ」を考案した平山亜矢子さん（社会福祉法人愛信会 幸の実園 在勤）に記念品が贈呈されました。

▶開所セレモニーの様子



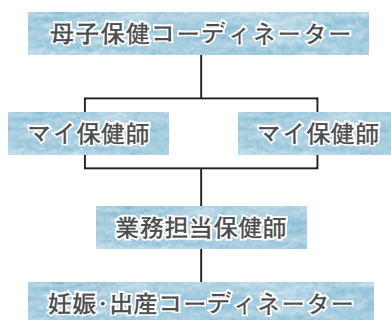
▲（写真左から）平山さん、山田村長

お気軽に
ご相談ください！



▲母子保健専任スタッフの皆さん

子育て世代包括支援センターへようこそ！



平成29年度
東海村母子保健
担当の体制

「とうかい版ネウボラ」を推進するため、本年度は、「母子保健コーディネーター」を1人と、各中学校区を担当する「マイ保健師」を2人配置するなど、計5人の母子保健専任スタッフが、お母さん一人ひとりに丁寧に関わり、切れ目ない支援につなげていきます。東海村で安心して子育てができるよう応援していきますので、お気軽にご相談ください。

子どもたちの健やかな成長を願って――。

「子育て世代包括支援センター」の愛称を考案した
平山さんに聞きました！

「はぐ♥くみ」 の由来 とは？



「ハグをする」と「育む(はぐくむ)」の両方の「はぐ」をかけて、「はぐ♥くみ」としました。ハグ(抱きしめる・抱っこ・ぎゅう)をすることで、健やかで幸せな気持ちになります。

また、「育む」とは、「包み込んで育てる」という意味もあります。妊娠・出産・子育ての中で、親・子ともに地域の支援を受け、相談ができ、見守られながら成長していく場になってほしいという思いを込め名付けました。

1歳のお誕生日おめでとう！
「歯っぴーバスデー教室」を開催
お子さんが1歳になるころ

産後期を支援！
「産後ママあしんケア事業」を開始
出産直後は、心身の状態や育児に悩むこともあります。そこで村では、母親の産後の不安や負担の軽減を図るとともに、育児不安を解消し、地域で安心して子育てがスタートできるよう、協力医療機関や村内の「とべ助産院」で、宿泊や日帰りで母子のケアや授乳指導などを受けることができる産後ケア事業を開始しました。

は、離乳食や歯の心配も出てくるのではないのでしょうか。村では、1歳のお誕生日教室として、離乳食への不安や疑問解消の支援、幼児食や子ども頃の食育の重要性および適切な口腔ケアの周知などをを行います。歯ブラシなどのプレゼントもありますので、ぜひご参加ください。※対象者には、個別に通知します。
妊娠・出産・子育ての切れ目ない支援により、安心して子どもを生み育てられる環境をつくるのが「とうかい版ネウボラ」の目的です。村として、より一層の支援に取り組みます。

【「はぐ♥くみ」子育て電話相談】

☎306-2277

(月曜日から金曜日までの午前8時30分～午後5時15分(正午～午後1時を除く))

